

第55回 Society of Toxicology (SOT) 学術年会派遣報告① － AOP の基礎とゼブラフィッシュの今後の発展に期待 －

ファイザー株式会社 非臨床開発研究部 瀧 憲二



第55回米国毒性学会 (Society of Toxicology, SOT) 学術年会は、2016年3月13日の教育コースから始まり、3月17日まで、ルイジアナ州ニューオーリンズの New Orleans Ernest N. Morial Convention Center において開催されました。今回私は日本毒性学会教育委員会が企画している SOT 派遣事業の一環として、教育コースの「Adverse Outcome Pathway (AOP) Development and Evaluation」および「Zebrafish As a Tool in Toxicology and Drug Discovery Screening」を受講させていただきました。

午前中に受講した AOP のコースでは、SOT に参加できなかった人のためにウェブキャストによるネット上映もなされており、新たな試みが行われていました。内容は AOP の基本から、AOP 構築の原理原則、現在の AOP を取り巻く状況、ESFA (European Food Safety Agency) 規制当局側の対応状況について説明されました。AOP 構築については研究者の協力が不可欠で、教育コースとは別に、直接 AOP を PC 上で構築してみようという Hands-on セミナーも後日開催されていました。午後の Zebrafish のコースでは、ゼブラフィッシュのモデル動物としての歴史から、Toxicology research (生殖発生毒性、肝毒性、心毒性および神経行動学的毒性試験) および Drug screening への応用例の紹介、現在の規制対応に関わる状況などについても触れられていました。両者とも基本的な部分から解説が進み、step up するように構成されていたため、大変理解しやすい内容でした。ゼブラフィッシュについては、プラットフォームセッションやポスター発表についても約 90 を超す発表があり、生殖発生毒性に始まり、行動量の変化を測定することによる毒性評価など今後のさらなる研究の発展に期待が持てる内容でした。

今回 SOT に派遣していただき、国際学会での最新のサイエンスに触れることができ非常に貴重な経験となりました。この SOT の教育コース派遣は、学会員の皆様にとって国際学会での最新の情報に触れられる大変良い機会だと思います。最後に、このような機会を与えてくださった日本毒性学会教育委員会および事務局の皆様、また SOT 参加にあたり社内業務のフォローをしていただいた関係者の皆様に、心よりお礼を申し上げます。

